

パグ アサ

PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー 夢・希望
2019年3月

【新 JFC 奨学生 ヒカル チュウナイくんへの家庭訪問】

社会・経済的状況



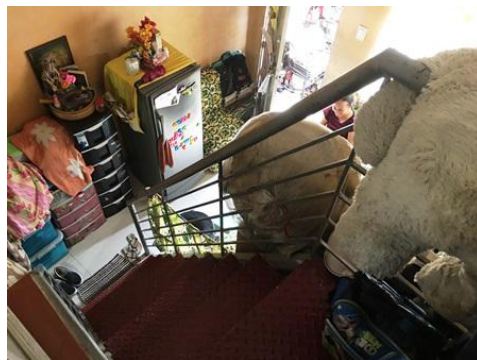
ケソン市クバオ地区から乗り合いタクシーに乗り、1時間ほど北へ向かうとヒカルくんが住むケソン市ノリチェス地区に到着しました。彼が住むアパートメントの周辺には、学校、病院、市場、モールなどが密集していて生活には便利な場所です。数年後にはこの地区に電車が開通するため、その工事で日中は渋滞がひどくなっているようです。ヒカルくんと母親のマリア ロメリンさんが住むアパートメントは、ノリチェス地区中心街に続く大通りから少し離れたところにあります。車通りも少ない比較的新しい家々が集まる場所で、井戸端会議をしている人たちもいないので静かな場所です。比較的新しい家が建っていて、母子の家周辺は、比較的大きな家が建っており、道路も舗装されていました。たくさん子ども達が道路で遊んだり、大人達も井戸端会議をしたりと、とても賑やかな場所です。

JFCヒカルくん(13歳)は、母親マリア ロメリンさん(34歳)、祖母、叔母3人、いとこ4人と一緒にアパートメントに住んでいます。アパートメントは2階建てになっていて、1階にはインニングルームととても小さなキッチンとトイレがあります。リビングルームには大きなテレビと5人ほどが座れるソファが置かれています。キッチンにはガスコンロと料理道具が置かれていますが、料理をするスペースにはとても狭いものになっています。キッチンの横にはまたベッドが置かれていて、ヒカルくんの叔母と彼女の子どもが寝室として使っています。2階は一部屋のみで寝室として使われていますが、大きなベッドと小さなベッドが1台ずつと服や小物が無造作に置かれていて、歩くのも大変なほどです。この2階には、JFC祖母、JFC叔母と彼女の子ども達5人が利用しています。ヒカルくんと母親は、自分達が寝る場所がないため、リビングにあるソファで寝ているそうです。アパートメントは比較的新しい建物ですが、風通しがあまりよくなく、日中は日差しが入り込んできて、とても暑くなるそうです。どうにか扇風機でしのいでいるそうですが、週末は近所にあるモールで涼しむそうです。

JFC母親は裁縫の仕事をしていましたが、現在は一緒に住んでいるJFCの幼いいとこ達の面倒をみるため仕事はやめてしまっています。アパートメントの家賃6,500ペソ(約14,000円)、水道800ペソ(約1,800円)、電気代2,000ペソ(約4,400円)、食費20,000



ペソ(約 44,000 円)、その他の費用は、中東に出稼ぎに行っているいとこ達の父親と JFC 祖母の年金でまかなっています。ヒカルくんの父親は 2015 年 11 月に日本で亡くなっていて、弁護士さんに遺産調査もしてもらいましたが、残された財産はありませんでした。なので、JFC 母子の生活は中東からの送金と祖母に支援してもらっているため、ヒカルくんや母親は肩身の狭い思いをすることが多いようです。



JFC の状況



ヒカルくんは、年齢よりかなり小さい体をしていて、小学3年生ぐらいに見られることがあります。母親によると、彼の父親も小さい体の人だったので遺伝だそうです。しかし、小さい体だけでも自分の意思をしっかりとと言える年齢以上に賢い生徒です。現在ケソン市立科学高校の2年生です。ケソン市科学高校は成績優秀な子ども達が勉強をしていることで有名です。小学校から成績優秀だったヒカルくんは、将来科学技師になるためにこの学校に進学しました。大学はフィリピン大学工学部への進学を希望しています。彼の得意科目は科学だそうです。とても難しい勉強ないようだけれど自分の限界までチャレンジできるから好きだと言います。前学期の成績は平均 90 点あったので、国公立大学へのチャレンジは可能かと思えます。

ヒカルくんは学校に友人が少ないと言います。友人とゲームをするより、図書館で勉強をしている方が楽しいそうです。現在住んでいるアパートメントは、家財道具が場所を占めていて勉強

できる机もなく、幼いいとこ達が賑やかなため勉強に集中することができないそうです。なので、図書館や夜は母親と一緒にモール内のフードコートで勉強をしているそうです。母親も学校生活での問題はないと言いますが、彼女が心配しているのは彼の叔母達との関係だそうです。ヒカルくんは思ったことをはっきりと言ってしまう性格のため、叔母達は彼が口答えをするといって叱るそうです。それに納得いかないヒカルくんは母親に八つ当たりをすることが多いそうです。しかし、母親は自分達の生活がその叔母の夫からの送金に頼っているため、ヒカルくんばかりをかばう事ができないそうです。マリガヤハウスからもカウンセリングを行いました。同居家族に対する不満が噴出してきました。13 歳と思春期で多感な時期なので、色々な思いが交差しながら自分自身でも収集がつかないのだと思います。ヒカルくんは母親に、別のアパートメントを借りて2人で住みたいと言っているそうですが、経済的に難しい状況です。彼の願いや近い将来の大学進学を考えて日本での家事労働を計画しているそうです。

このような境遇の中でも、ヒカルくんは将来の夢に向かって努力しています。そんな彼を奨学生として支援していきたいと思えます。今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

